ポジティブ・インパクト・ファイナンス モニタリング報告書(2025 年度上期)

発行日:2025 年 10 月 31 日 発行者:第四北越

リサーチ&コンサルティング株式会社

1.モニタリングの目的

• モニタリングは「ポジティブ・インパクト・ファイナンス評価書」(以下、評価書)に記載されている KPIについて、その進捗が目標と整合するか否かを確認し、フォローアップにつなげることを目的 としている。

2. モニタリングの対象企業

- 2025 年度上期に実施したモニタリング対象企業は、以下のとおり。
- ▶ 株式会社福田組(検証期間:2024年 | 月 | 日~2024年 | 2月3 | 日)
- 株式会社丸山自動車(検証期間:2024年1月1日~2024年12月31日)
- → 社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 新潟県済生会 (検証期間:2024年4月1日~2025年3月31日)
- ▶ 里味グループ(検証期間:2024年4月1日~2025年3月31日)
- 株式会社飯塚鉄工所(検証期間:2024年5月1日~2025年4月30日)
- ▶ 株式会社オグロ(検証期間:2024年5月1日~2025年4月30日)

3. モニタリングの方法

評価書に記載された KPI について、面談のほか、各種資料の入手を通じて検証を進めた。

4. モニタリングの実施概要

次頁以降に対象企業各社のモニタリング実施概要を記載

株式会社福田組

インパクト	KPI	実績	対象企業のコメント
# A #	設計施工を行う建築案件のうち ZEB·ZEH 竣工件数年間2件以上 を維持する。	【2024 年度実績】 18 件中 4 件	・営業段階より ZEH に関わる 設備の提案を継続して実施。 ZEH に関する顧客の関心も 高まっている模様である。
安全・安心な地域社会づくりへの	国土交通省北陸地方整備局「ICT 人材育成推進企業」の認定継続。	2024年度認定(3年連続)	・ICT を活用した施工において高い技術力を認められた。 また、さらなる技術の向上のため講習会を実施した。
貢献	国土交通省北陸地方整備局「工事成績優秀企業」の認定継続。	2024年度認定(12年連続) ·工事成績評定点:80点 ·施工実績:7件	・各種施工工事の施工状況や 出来ばえなどで高水準の取り 組みが評価された。
従業員が健 康で働きや すく働きが いのある職 場づくり	下記指標において 2025 年目標 (2025 年 12 月期)を達成する。 (a)男性労働者の育児休業取得率 80%以上 (b)ストレスチェック高ストレス者割合 5.0%以下 (c)一級土木施工管理士2次検定合格率 70%以上 (d)一級建築士設計製図試験合格率 50%以上 (e)一級建築施工管理技士2次検定合格率 60%以上	【2024年 12月期実績】 (前期比) (a) 52.2%(+16.9) (b) 9.4%(▲0.5) (c) 50.0%(±0) 12人中6人合格 (d) 25.0%(▲38.6) 8人中2人合格 (e) 56.5%(▲14.1) 23人中13人合格	(a) 人事部が育休制度について発信強化、周知・徹底を図っている。(育休取得者は、1~2週間程度の休暇を取得) (b) 建設業において残業規制開始、管理監督者の負担が増加している。 (c)(d)(e) 年度において難易度の上下あり。勉強会の開催、合格者への奨励金や受験料相当額の支給を行うなどバックアップ体制を整備済みである。
	経済産業省「健康経営優良法人 (大規模法人部門)」の認定継続	「健康経営優良法人 2025 (大規模法人部門)(※ホワイト500を除く)」に認定 ・2023年より3年連続認定取得	・会社補助をより手厚くし、受診の呼びかけを徹底したことで健康診断受診率 100%を維持。また、働き方改革の推進を通じて従業員の健康増進に取り組んだことが奏功した。
環境配慮への取り組み	2030 年度 (2030 年 I 2 月期)までに、温室効果ガス (Scope I、Scope 2)の総排出量を 2023 年度比 30%削減する。 ※2023 年度 GHG 総排出量 24,478t-CO2	【2024年度実績】 ·GHG 総排出量 21,064+—CO2 ·削減率(2023 年度比) 13.9%	・カーボンニュートラル委員会を設置。・脱炭素に向けて拠点ごとに活動を推進した(例:電動車の導入、ペーパレスの取り組み)。・寮の閉鎖も削減に寄与した。

株式会社丸山自動車

インパクト	KPI	実績	対象企業のコメント
従業員が心身ともに健	上 位 法 人「ホワイト 500」の認定を継続す る	「健康経営優良法人 2025 (大規模法人部門) (※ホワイト 500 を除く)」 に認定	・「ホワイト 500」の認定は逃したものの、「大規模法人部門」で健康経営優良法人の認定を獲得できたことは同社の健康経営に対する取り組みが評価されたものである。 ・反省点をあげるとすれば、会社の規模が拡大するなかで、従業員一人ひとりの健康経営に対する意識づけが少しずつ薄まっていること。どのように意識づけを行っていくかが今後の課題。
康で働きや すい職場環 境づくり	環 男性の育休取得率 100%	・職場内で休暇取得者が不在の分をカバーする体制がつくられている。 ・他店舗からの応援も機動的に行い、対象者には育休を取得してもらうことができた。	
	2030 年までに従業員 I 人あたりの年間教育 訓練時間を I 50 時間と する(社内外で実施さ れる OFF-JT)	2024 年度教育訓練時間: I I O 時間 ※前年比:+3 時間 (2023 年度 I O7 時間)	・従来研修は外部講師が行っていた(県外で受講することが多い)が、研修の内製化を目指し、教育担当の役員・社員がスキルを習得。 ・今後の研修は質量ともに充実することが期待される。
安全で環 境に優しい 移動手段 の提供	2030 年までに新車販売台数に占める電気自動車の割合をグループ全体で 60%とする	EV 車販売比率 2.8% (EV 車販売台数 70 台/ 新車販売台数 2,460 台)	・2024年5月にBYD AUTO 新潟をグランドオープン。 ・BYD 車の売れ行きは堅調(前年比3.5倍)。取扱車種も増え(SUV、軽など)、販売台数は順調に推移するものと想定。インフラ(充電器)の整備がどこまで進むかを課題として認識している。
資源の有効 活用に向け た取り組み	修理用の自動車部品に ついて、2030年までに リサイクルパーツの利 用比率を 30%にする	リサイクルパーツ比率 22.0% ※前年比:▲0.8 ポイント (2023 年度:22.8%)	・顧客に対しリサイクル部品の利用を積極的に提案しているが、新品・リサイクル品のどちらを利用するかは最終的には顧客の判断になる。 ・リサイクル品の使用に対する社会の意識の高まりを期待したい。

▶ 社会福祉法人 恩賜財団済生会支部 新潟県済生会

インパクト	KPI	実績	対象者のコメント
高品質かつ安全な医療・介護サービスの提供	県央医療圏域の救急搬送約 8,000件の 95%を圏域内の医療機関との役割分担で受け入れる体制を構築する。 2024年4月1日以降の採用を含めて、医師数を70名、うち救急科、総合診療科で10名、麻酔科6名以上を確保する。	【2024 年度実績】 県央基幹病院での受け入れ比率 87.20% ※他地域への搬送はほぼ 解消 【2025 年 3 月 3 1 日 現在】 医師数 68 名 うち救急科・総合診療科 13 名	・域内で救急搬送を受け入れる他の病院との調整を行い、 新潟や長岡など他地域への 搬送はほぼ解消している。 ・診療科目により医師の確保 が難しいものもあり、総数では 若干目標を下回っている。一 方、救急医療体制を維持する ために必要な医師数は確保し
	済生会新潟県央基幹病院は、圏域 内救急の最後の砦として、疾患・症 状の区別なく、年間 6,000 件以上 の救急患者を受け入れる。	うち麻酔科 6 名 【2024 年度実績】 6,412 件	ている。 ・目標を上回る件数の救急患者を受け入れており、域内救急の最後の砦としての役割を果たしている。
地域福祉の	済生会新潟病院と済生会三条病院の2病院で実施している無料低額診療事業について、毎年、前年を上回る実施回数を目指す。	【過去実績】 2021年度 62,020回 2022年度 64,052回 【2024年度実績】 64,164回	・済生会の使命の一つである 「生活困窮者支援の積極的推 進」を具現化する活動として無 料低額診療事業を実施してい る。行政などとの連携により、 実施回数は順調に増加してい る。
推進	無料低額診療事業について	【2024 年度実績】 67,249 回 【2025 年度以降の目標】 前年を上回る実績を目指 す。 (2025 年度目標) 68,000 回	
生き生きと 働ける職場 づくり	済生会新潟病院の学会・外部研修 会の参加人数について、毎年 3% 以上の増加を目指す。	【2022 年度実績】 外部研修 707 人 学会 315 人 【2024 年度実績】 外部研修 849 人 学会 343 人 (2022 年度比較) 外部研修・学会の参加人 数の合計で 16.6%増	・最新医療知識や技術の習得、ならびに全国各地の医療 従事者との情報交換のため、 職員の外部研修への派遣お よび学会への参加を積極的に 推奨している。

	2024 年度以降は済生会三条病院と済生会新潟県央基幹病院の数値を加えた3病院での参加人数を計測・数値化した上で、2025 年度以降に数値目標を設定し、達成に向けて取り組む。	【2024年度3病院合計の 実績】 外部研修 1,345 人 学会 600 人 【2025度以降の目標】 前年度比 3%以上の増加 を目指す。 (2025年度目標) 外部研修 1384 人 学会 618 人	・職員の外部研修への派遣や 学会への参加については、出 席者本人だけではなく、その 後の職場内で情報共有を通じ て他の職員にも良い影響を及 ぼしている。今後も積極的に 進めていく予定である。
環境配慮への取り組み	紙の使用量について、2024 年度 に済生会新潟県央基幹病院の数 値を加えた 3 病院の合計量を計 測・数値化した上で、2025 年度以 降に数値目標を設定し、達成に向 けて取り組む。	【2024年度3病院合計紙 使用量の実績】 13,365,000枚 【2025年度以降の目標】 前年度比▲3%を目指す。 (2025年度目標) 12,964,050枚	・従来からカルテの電子化等により紙の削減に努めている。 今後も事務手順の見直し等を 行い、紙使用量の削減を積極 的に進めていく予定である。

▶ 里味グループ(里味食品加工株式会社、株式会社里味)

インパクト	KPI	実績	対象企業のコメント
高品質で安全・安心な 飲食の提供	2025年度(決算期:2026 年3月)の株式会社里味の 売上高2,150百万円を達 成する。 (2026年度以降の目標は 改めて設定する)	【過去実績】 2020年度 1,666百万円 2021年度 1,583百万円 2022年度 1,776百万円 【2023年度実績】 1,993百万円 【2024年度実績】 2,010百万円	・売上高は順調に推移。2025 年度の目標達成を視野に入れている。 ・人件費や材料費の高騰に対応するため、2025 年春に商品の価格改定を実施したことも今後の売上増の要因となる。
健康で働き やすい職場 づくり	やすい職場 社里味の両社の有給休暇	●里味食品加工株式会社 【過去実績】 2020年度 56.9% 2021年度 58.3% 2022年度 57.7% 【2023年度実績】60.9% 【2024年度実績】63.6% ●株式会社里味 【過去実績】 2020年度 57.7% 2021年度 60.4% 2022年度 59.4% 【2023年度実績】62.5% 【2024年度実績】62.9%	・里味食品加工および里味の 両社とも有給休暇取得率は順 調に上がってきている。 ・同業他社と比較して正社員 の従業員比率が高いことか ら、計画的な有給休暇の取得 が可能である。
環境配慮への取り組み	2025年度(決算期:2026 年3月)までに里味食品加工株式会社の売上高 I, 000 円あたりの電力使用 料を 0.8500kWh 以下に抑える。 (2026 年度以降の目標は 改めて設定する)	【過去実績】 2020年度 0.8784kWh 2021年度 0.9649Kwh 2022年度 0.8642kWh 【2023年度実績】 0.7996kWh 【2024年度実績】	・LED 照明の導入等で電力消費量の低減に努めるなど省エネ対策を実施していることが奏功。 ・2025年3月から4月にかけて空調設備の入替を実施しており、今後さらなる低減が見込まれる。

株式会社飯塚鉄工所

インパクト	KPI	実績	対象企業のコメント
	2030 年度までにお客様満足度調 査の結果を本社工場で平均 18.5 点にする。	【2024 年 4 月期実績】 16.0 点/20 点 【2025 年 4 月期実績】 16.4 点/20 点	・軽井川工場に集約したことから、旧本社工場=第一工場は前年比+0.4点・前年からやや上昇したが、さらなる改善が必要である。
生産性の向上	2030年度までにお客様満足度調査の結果を軽井川工場で平均18.5点にする。	【2024 年 4 月期実績】 15.3 点/20 点 【2025 年 4 月期実績】 15.7 点/20 点	・軽井川工場に集約したこと から旧軽井川工場=第二工場 は前年比+0.4点 ・前年からやや上昇したが、さ らなる改善が必要。第一・第二 工場とも希望納期に対する満 足度の向上が不可欠である。
	「くるみん認定」を継続する。	2022年に「くるみん」認定 を取得	・2025年4月期において、認定基準をクリアしている。
働きがい のある職場 づくり	女性の育児休暇所得率 100%を 維持し、2030 年度までには男性 の育児休暇取得率を 100%とす る。	2025 年 4 月期実績 女性育児休暇取得率: 100% 男性育児休暇取得率: 100%	・対象者は男性・女性とも育児 休暇を取得済である。・男性社員の取得期間は3ヵ月。
	2024 年度までに経済産業省・日本健康会議「健康経営優良法人 (中小規模法人部門)」の認定を取得する。	健康経営優良法人 2025 (中小規模法人部門)の認 定を取得	・前年に引き続き、健康経営優 良法人の認定取得を継続して いる。
環境負荷の	売上高当たり CO2 排出量を毎年、 前年比 3.0%以上削減する。	2024年3月期実績: 0.57t-CO ₂ /百万円 2025年3月期実績: 0.395t-CO2/百万円	・前年比▲0.175+-CO2/百万円(▲30.7%)・購入電力のうち、1割を再エネ電力に切り替えたことが奏功した。
低減	従業員 I 人当たりの一般廃棄物量 を毎年 I .5%削減する。	2024年4月期実績 79.4kg 2025年4月期実績: 75.7Kg	・前年比▲4.7% ・工場間の物流時に網かごを 使用するなど、段ボール箱等 の使用の抑制につながっている。

▶ 株式会社オグロ

インパクト	KPI	実績	対象企業のコメント
	社内研修(技能検定受講者に向け た講習)を年 18 回以上実施する。	【2025 年 4 月期実績】 29 回	・目標比+11回 ・技能検定実施の3~4か月前 から週に1回程度の頻度で開 催。
高品質で安定的な製品	2024年度(2024年5月~2025 年4月、決算期)から2028年度 の5期平均売上高を2,100,000 千円以上にする。	【2025 年 4 月期売上高】 前年度(2024年 4 月期) に比べて増加	・主力先からの受注が堅調であったことから、単年度では KPIに迫る水準となった。
の供給	2025年末までの毎年の不良品発	【2024年末 不良品発生率】 0.20%	・前年比▲0.01% ・期中に不良品の捉え方の社 内基準を従来よりも厳しくした が、原因究明と対策、不良品 の費用換算などを徹底することで発生抑制に努めた。
	ISO9001 の認証取得を継続する。	2025 年 月に継続更新 (3年更新)	·2025 年 I 月に継続更新済 (3年更新)
	2030年度(2030年5月~2031年4月、決算期)における従業員一人あたりの売上高を16,000千円以上にする。	【2025 年 4 月期実績】 前年度(2024年 4 月期) に比べてやや増加	・売上高は増加したものの、増産体制に合わせた人員の増加もあり、目標には届かない水準にとどまった。・2026年4月期には、付加価値向上を進めながら、一段のレベルアップを目指す。
全従業員 が働きやす い職場環 境づくり	2025年3月末時点における技能検定(特殊機械加工技能士、数値制御フライス盤【I級・2級機械加工技能士】、マシニングセンタ作業【I級・2級機械加工技能士】、数値制御旋盤【I級・2級機械加工技能士】、円筒研削盤【I級・2級機械加工技能士】、機械検査【I級・2級】)の合格者数(累積)を50名以上とする。(2025年4月以降の目標は改めて設定)	【2024年3月末実績】 44名 【2025年3月末実績】 48名 【2026年3月末以降の目標】 2026年50名 2027年52名 2028年55名	・合格者数(累積:48名)の技能検定別内訳は以下のとおり。 特殊機械加工技能士:4マシニングセンタ作業:7数値制御フライス盤:6数値制御旋盤:17円筒研削盤:3機械検査:6機械保全:5・今後、資格保有者の中から定年退職者も出る見込みであり、今後の目標は毎年2名ずつの増加目標とする。

環境に配慮	2024 年度(2024年5月~2025 年4月、決算期)における電気使用 量(売上高・百万円あたり)を 0.21kW以下、2025年度に0.20 kW以下にする。 (2026年度以降の目標は改めて 設定)	【2025 年4月期実績】 0.24kW/百万円	・前年比▲0.02kw/百万円 ・第 4 工場の稼働を開始した ほか、昨夏も酷暑によるエアコ ンの利用が多かったものの、 売上高も増加したことから前 年比微減となった。
した取り組み	2024 年度(2024年5月~2025 年4月、決算期)の廃棄物量(売上 高・百万円あたり)を 5.50kg 以 下、2025 年度に 5.00kg 以下にする。 (2026 年度以降の目標は改めて 設定)	【2025 年 4 月期実績】 7.15kg	・前年比+1.76kg ・廃棄物量の増加の背景としては、第4工場の稼働や、既存工場における設備の入れ替えなどにより、設備に付属する備品等の廃棄が増えたことによるものとみている。

以上